

令和7年度「全国キャリア教育・就職ガイダンス」プログラム

大学生のキャリア自律を育む
長期実践型インターンシップB-CAMPについて
～専属メンターによる内省支援の効果～

NPO法人ブランディングポート
代表理事 安藤 奏
理事 野島 朋子

- ・ 団体概要
- ・ 取組事例
- ・ 研究目的と方法
- ・ 考察・今後の展望



团体概要

MISSION

果たすべき使命

すべての若者に
“自分ブランド”
な生き方を

私たちは全国の大学生に対して
「経験学習を通じたキャリア自律」を育む支援を行っています。

団体名	特定非営利活動法人ブランディングポート
代表理事	安藤奏
設立日	2017年8月1日（法人化：2022年5月2日）
所在地	東京都豊島区池袋三丁目30番21号1F

企業人事として現場で感じた課題



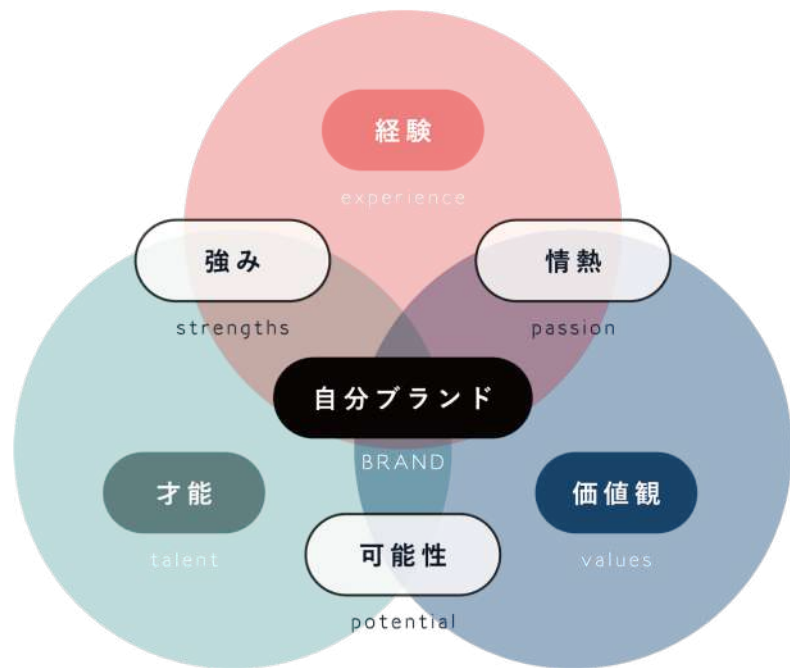
出所：経団連「Society5.0実現-ともに創造する未来」(2018/11/13)より抜粋して作成

代表安藤の芸能活動での原体験



若者が誰かにとっての正解ではなく、
キャリアにオーナーシップを持って人生を切り拓いてほしい

「自分ブランド」とは

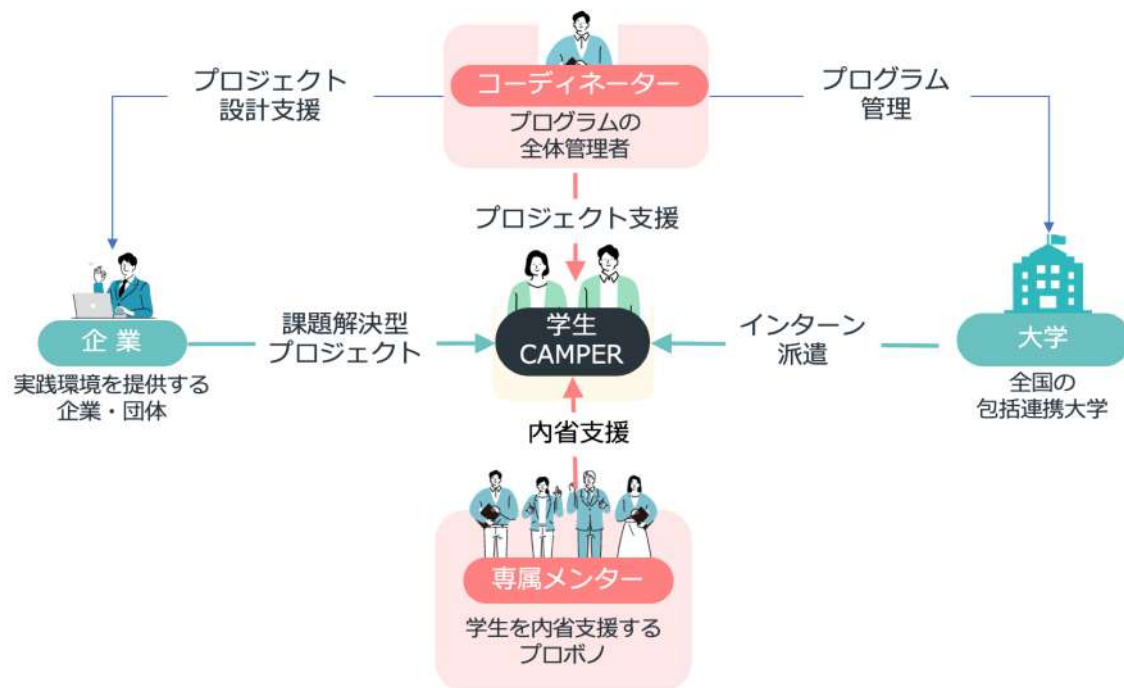


自分ブランドとは？

「強み・情熱・可能性」を自分自身が理解し、
行動に移している状態
「経験」の投資行動を重ねることで確立する

長期実践型インターンシップ B-CAMPとは

大学生が「課題解決型プロジェクトの実践」と「専属メンターとの内省」を通して、
「強みと情熱＝自分ブランド」を発見する長期実践型インターンシップ



長期実践型インターンシップ B-CAMPの流れ

プロジェクトの実践支援は「コーディネーター」が、内省支援は「メンター」が両面から伴走を行い、6ヶ月間のプログラムを実現する。

プロジェクトの実践

メンターとの内省

開始

企業との顔合わせ
フィールドワークも実施



7月

検討期間

学生主体でプロジェクトを検討
コーディネーターが伴走支援



9月

実行

企画したプロジェクトを実行
地域や企業課題を解決



12月



ガイダンス研修

独自のワークシートでメンターと
メンタリング開始

2週間に1回の
個別メンタリング



中間研修

診断ツールをもとにした
自分の強みや価値観の理解



最終報告会

プロジェクト報告とともに、
自分ブランドを報告

受賞歴



タイトル	としま子ども若者応援事業コンペティション 特別賞
受賞年度	2022年度
主催	東京都豊島区



タイトル	第13回 キャリア教育アワード コーディネーター部門奨励賞
受賞年度	2023年度
主催	経済産業省



日本インターンシップ学会

タイトル	高良記念研究助成
受賞年度	2024年度
主催	日本インターンシップ学会

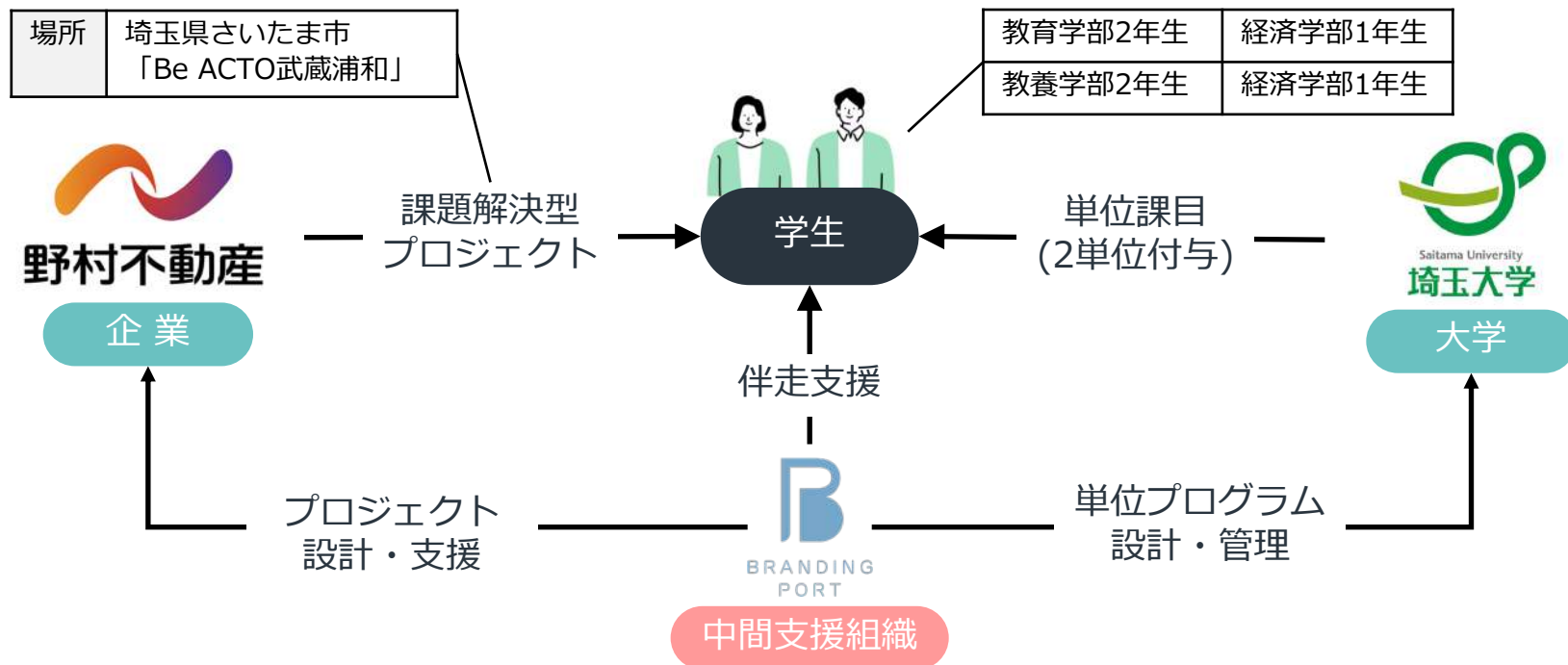


取組事例

埼玉大学・野村不動産との 長期実践型インターンシップB-CAMPの事例



埼玉大学・野村不動産・ブランディングポートが連携協定を締結し、
埼玉県 武蔵浦和のエリア拠点を活用した「産学民連携プロジェクト」を実施



中間支援組織としての役割



当社の提供する価値

①結びつける

双方のニーズに合わせて企業や人材をマッチングする

②企画する

プログラムカリキュラム・実施体制の設計

③伴走する

学生のガイダンス、プロジェクト助言、振り返り、各種調整(契約締結 等)

目的

- ・ エリアマネジメントの取組拡大
- ・ 学生の新たな発想による活動の組成

課題

- ・ 専門人材はいるが、持続可能な体制作りのために、活動の主体を地元に移管したい。
- ・ 学生の管理・育成に専門性や知見がない。

- ・ 学生向けプログラムの充実化
- ・ 地域(埼玉県)に根付いたインターンシップの実施

- ・ 時間やノウハウが足りず、プログラムの企画実行まで手が回らない。
- ・ 県内企業との関係性は一定数あるが、幅広いリレーションが生まれてない。

コーディネーターの役割（事前～事後）

長期実践型インターンシップのコーディネーターの役割は、
企業大学間の調整、プロジェクト設計、学生に対する伴走支援など多岐に渡る

コーディネーターの動き

2～3月	4～5月	6月	7月	8～9月	10月	11月	12月	1月
企業および大学の開拓調整	プロジェクト設計	学生募集 →選考 ガイダンス実施	企業との顔合わせ・フィールドワーク実施	プレイベント開催 →振り返り	中間研修実施	企画イベント開催 →振り返り	最終報告会の実施	企業および大学の振り返り
← 伴走支援 →								



長期実践型インターンシップの成果

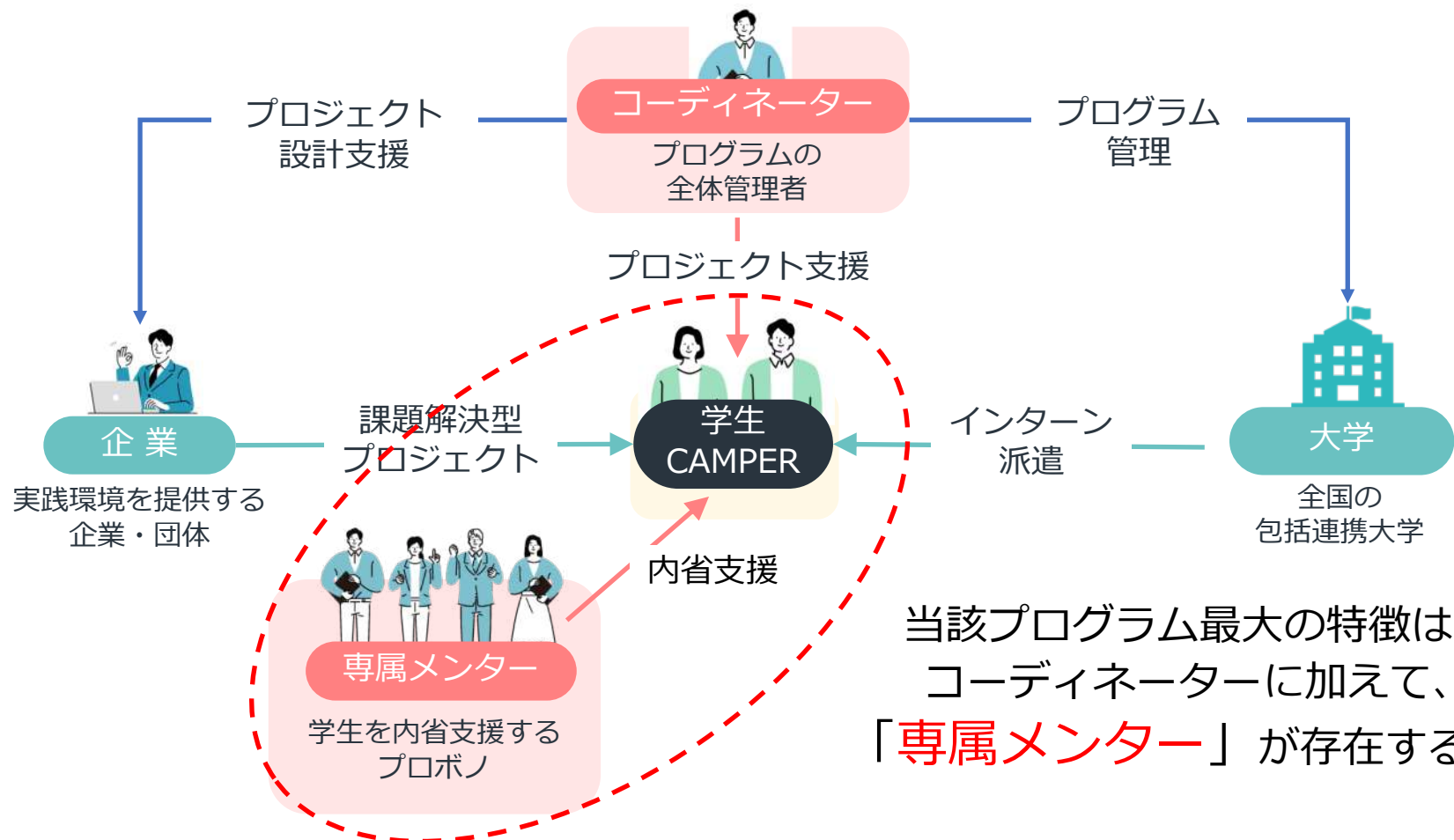
地域住民のシビックプライド醸成を目的に、
学生がフィールドワークや課題分析を通じて「つながる！むさうら交流会」を開催

概要	第一部：理想の武蔵浦和と私を表現するビジョンボード制作 第二部：ボードゲーム交流会
日程	2024年12月1日
場所	マチノバ
参加数	63名
配布数	600枚
連携団体	千葉商科大学 Be ACTO武蔵浦和 野村不動産 地域の飲食店・施設等

- ・ 武蔵浦和をもっと知りたくなった。
- ・ 何か作業をしながらだったから初めての人とも話やすく、自然と会話が生まれた。地域の知り合いが増えた。
- ・ またこのようなイベントに参加したい。



B-CAMPの特徴



当該プログラム最大の特徴は、
コーディネーターに加えて、
「**専属メンター**」が存在すること

専属メンターの特徴

■役割 内省支援・精神支援

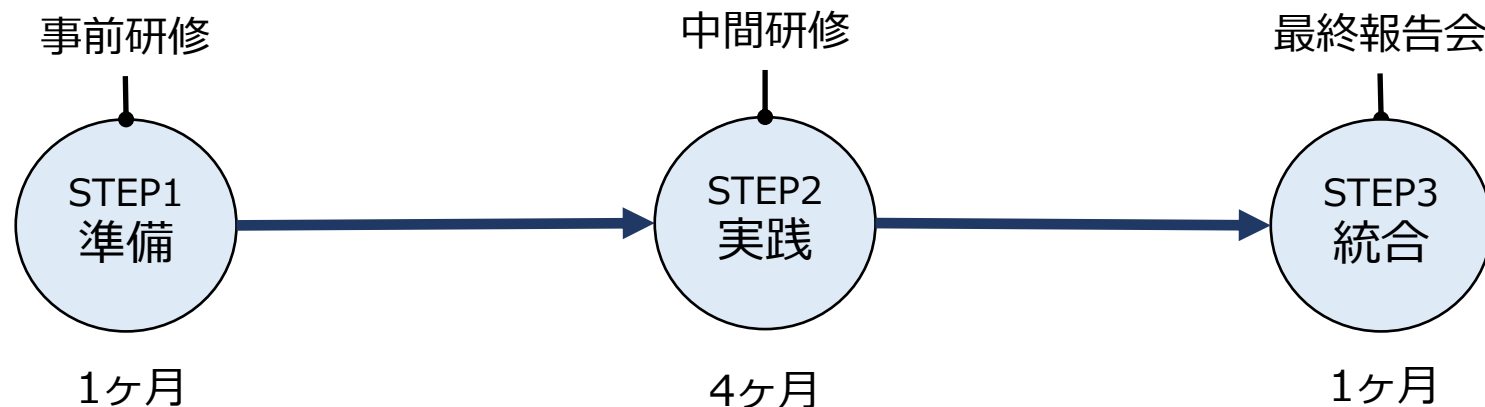
- ・2週間に1回セッション 計12回
- ・専属メンターと学生の1対1のオンライン面談
- ・事前研修・ワークシート・メンターの情報交換会を定期開催

■属性 プロボノ人材

- ・様々な業界で働く社会人（20～30代中心）で第三者の関係
- ・国家資格キャリアコンサルタントやコーチング国際資格取得者
- ・人事経験者のみならず、営業や商品開発、新規事業など



メンタリングのプロセス



安心感のある環境づくり	チェックインを大切に する
	メンタリング環境を整 える
対等な協働関係づくり	学生が話しやすい場づ くり
	メンターからの自己開 示

自己認知 の拡張	今持っている感情を発散 させる
	気づきのフィードバッ ク・リフレーミング
	強みへのフォーカス
経験学習 の定着	経験の後押し
	振り返りの方法の提供

自分ブラン ドの収束	ワークシートを活用する
	自分ブランドの表現を考 える
キャリア形 成の自走化	将来の展望を深める
	アクションを具体化する

専属メンターと2週間に1回1時間の1対1のメンタリングを実施する。
経験や感情から「自分の強みと情熱」を整理し、成長変化や行動計画まで落とし込む。

わたしの「自分ブランド」は

全体を俯瞰し周囲と同期しながら、着実に物事を進めるメトロノーム



強み（才能×経験）について

リスクを予測しながら、チームの軸を保つ慎重さ
才能：原点思考・慎重さ
経験：活動を行う中で、チームでの動きが企画の目的や活動の軸からぶれないように意識し、常に先のリスクを予測しながら、チームでの活動が円滑に進行するようにサポートすることが出来た。

情熱（価値観×経験）について

客観的に分析しながら計画的に物事を進めること
価値観：計画性
経験：今チームに必要なことを積極的に捉えながら、企画の運営に必要な準備を計画的に行えるように、積極的に提案や声掛けをすることが出来た。
正確にリズムを刻みながら、チーム全体の動きを整えることが出来た。



わたしの「自分ブランド」は

人の得意を組みわせるパズルマスター



強み（才能×経験）について

人の才能を活かす協調性
才能：協調性・バランス感覚・観察力
経験：人の得意を活かし、チームのモチベーションの向上に繋げた

情熱（価値観×経験）について

人（やチーム）に前向きな変化をもたらしたい
価値観：調和・貢献性経験：落ち込んでる様子を
見かけたら、話を聞いて必ずアクション
を起こし、前向きになるよう働きかけた



わたしの「自分ブランド」は

戦略的なLEDライト



強み（才能×経験）について

対人へ大切にしたいことで、様々な視点の選択から、より
良いものを選択する力
才能：観察力、コミュニケーション、感性
経験：あらゆる視点から目的に沿ったアイデアを計画、
人との関わり方、人との関わりを大切にしたい。

情熱（価値観×経験）について

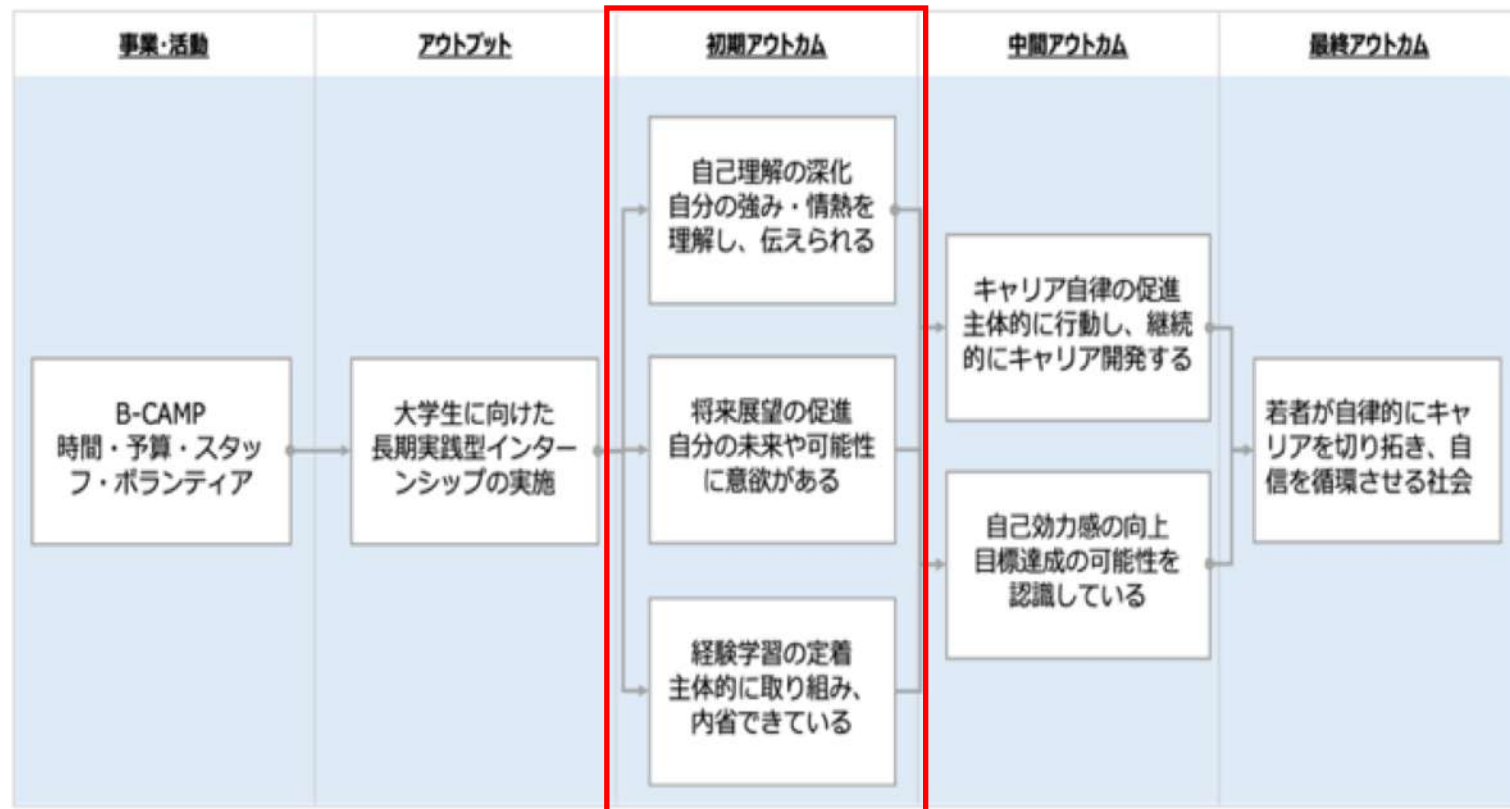
新しい言葉が飛び交う環境を作り出し、お互いの得意
（強み）を活かしたい
価値観：協調性、貢献性（強み）
経験：一度の人の人から吸収したいという気持ちが強い、
目的実現には満足できない、一歩踏み出すが得意





研究目的と方法

ロジックモデル



※上記ステークホルダーは一例であり、他にも協力企業、大学などもステークホルダーである。

目的 メンターが存在する長期実践型インターンシップの効果

方法 2021年度から2023年12月の期間に参加した学生に対するアンケート調査を実施した。

アンケート調査

- ・ 対象：2021年から2023年12月
- ・ 実施時期：プログラム開始時と終了後に調査
- ・ 方法：Googleフォームにて取得、開始時と終了時は、同じ質問項目で実施
- ・ 質問項目：「自己理解」（7項目）「将来展望」（9項目）、「経験学習」（7項目）の計23項目の各7段階評価と、自由記載欄の記述で調査した。
- ・ 回答数：22名(2022年9名、2023年13名)

ロジックモデルとアンケート項目

「自己理解」（7項目）「将来展望」（9項目）、「経験学習」（7項目）の計23項目の各7段階評価

自己理解の深化

自分の強み・情熱を
理解し、伝えられる

- ・自分の強みについて理解している
- ・自分が得意なこと、自分にある能力が何か理解している
- ・自分がどんな価値観／何を大事にしているか理解している
- ・自分が何に情熱をもっているか理解している

- ・自分の強みについて、経験をもとに人に伝えることができる
- ・自分が熱心に取り組めるものが何か説明できる
- ・自分の価値観／何を大事にしているかを人に伝えられる

将来展望の促進

自分の未来や
可能性に
意欲がある

- ・自分が仕事をするうえでの適性や将来の希望、可能性について理解している
- ・自分が仕事をするうえでの適性や将来の希望、可能性について人に伝えられる
- ・自分の生き方の選択肢は多様だと思う

- ・自分の可能性を多様に想像できる
- ・物事の考え方や視野は広いと思う
- ・自分の未来は明るいと思う
- ・未来は自分で変えられると思う
- ・人生は楽しいと実感している
- ・自分の人生は自分が主役だと信じられる

経験学習の定着

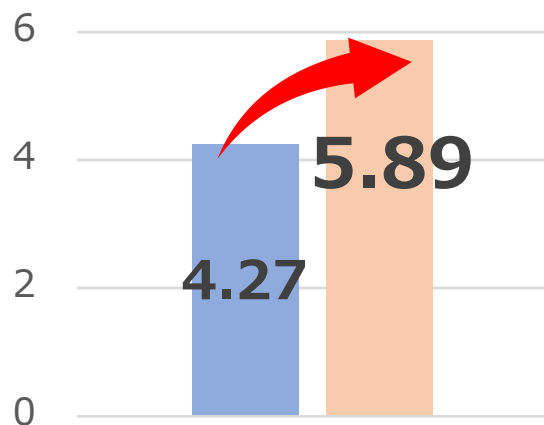
主体的に取り組み、
内省できている

- ・経験から学んだことを振り返る習慣がある
- ・経験から学んだことを振り返ることは大切だと思う
- ・経験から学んだことを日々、次の行動に活かしている

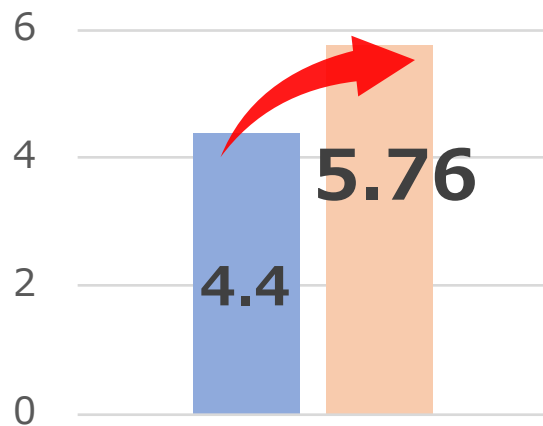
- ・日頃から自ら進んで行動している
- ・成長の機会を自ら求めて行動している
- ・自分は周囲に影響を与えられると思う
- ・自分に自信を持ち、周囲の人々に影響を与えている

「自己理解」「将来展望」「経験学習」すべての項目について、プラスの差がみられた

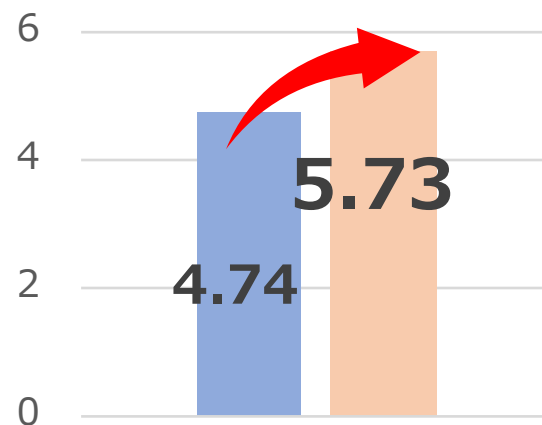
自己理解



将来展望



経験学習



①大学主導のインターンシップの更なる進化

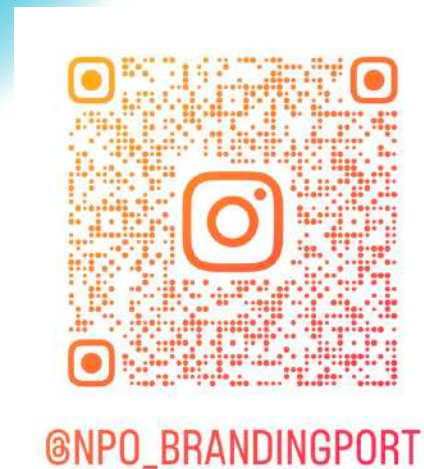
- ・ 学生の自律的なキャリア形成を促すメンターを据えたプログラムへの進化
- ・ 主目的が就職活動ではないプログラムは低学年時のキャリア教育の機会になる

②企業の人材育成スキルの向上への貢献

- ・ 学生の自律的で主体的な行動や経験学習習慣の醸成をどうサポートするかという知見の蓄積ができる
- ・ 若者の育成方法やマネジメント方法への転用可能性

③メンター自身(プロボノ)の成長や学びを得られる可能性

- ・ 短期間での学生の成長スピードや可能性に触れる
- ・ 視野の拡大、スキルの獲得（越境学習・アンラーニング）



@NPO_BRANDINGPORT

NPO法人ブランディングポート 安藤・野島
メールアドレス : general@brandingport.org